

## 秋学期授業開始

10月3日から秋学期の授業を開始した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、春学期は全ての授業をオンラインで実施したが、秋学期は土曜日のみキャンパス内での対面授業を再開した。再開にあたり、学生証IC認証による入退構者の管理や検温、消毒など、感染症拡大防止対策を徹底している。

スポーツ・レクリエーションに参加した1年生の学生は「初めてクラスメイトに会えて安心した」と笑顔で語った。本学は引き続き感染状況を踏まえ、オンライン授業に加え一部対面授業を並行して行う予定である。



## 防災訓練を実施 安否確認訓練では学生の約60%が参加

10月15日、防災訓練を実施した。今年はキャンパス内への入構制限をかけているため、グラウンドへの避難訓練を中止するなど、規模を縮小して開催した。2時限目の授業終了直前に行ったシェイクアウト訓練では、それぞれが訓練音源に合わせ、遠隔授業受講中の学生も含め自宅などで机の下に隠れ、頭を守るといった安全確保行動を取った。安否確認訓練は、これまで教職員のみを対象を、PorTaIIを活用して学生まで拡大。全学生の59.6%にあたる5019名の参加があった(10月16日現在)。



防火戸・防火シャッター開閉訓練(左)、非常用トイレ設営体験(右)の様子

また職員による個別訓練では、防火戸・防火シャッター開閉訓練、車いす等利用者の避難誘導訓練などを実施。さらにLEDランタン利用訓練では、教室内を消灯し停電時と同じ状況を作り、避難者が安心できる環境の検証や、非常用トイレの設営体験などを行った。

## 学友会活動再開

8月20日、一部の学友会団体が活動を再開した。新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底するため、団体には独自の感染予防ガイドラインの作成や健康観察が義務付けられた。さらに、新型コロナウイルス感染症の正しい知識を学習し、部員全員が和田智学友会体育部長作成のチェックテストに合格した上で活動が認められた。

活動再開初日となったこの日は、人工芝グラウンドで活動に励む学生の姿が見られた。和田体育部長は「本学では、学友会活動を教育活動と位置付けているため、どうすれば再開できるかを議論してきた。こうした状況下で何ができるか考え、行動することが学生の成長につながる」と語った。



## 2020年度9月卒業式を挙行

9月27日、2020年度9月卒業式・学位記授与式を挙行し、120名の卒業生が巣立った。当日は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、会場を天野貞祐記念館大講堂から創立50周年記念館(西棟)の各教室に変更し、参加者を卒業生と教職員のみ限定した。

学部ごとに教室を分けて行った式典では、卒業生全員の氏名を読み上げた後、学部長が代表学生2名に学位記を授与。その後の学長式辞では、教室のスクリーンに山路朝彦学長が投影され、卒業生にはなむけの言葉を送った。

学位取得者数は次のとおり。

■学 士 独16名、英8名、仏5名、交7名、言20名、済12名、営24名、環10名、律7名、国関法6名、総5名 計120名



## ONLINEオープンキャンパスを開催

6月から8月にかけて、「ONLINEオープンキャンパス」を計11回開催した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年キャンパス内で開催しているオープンキャンパスをオンライン上で実施した。本学としては初の試みであったが、受験を控えた高校3年生や、大学進学を考えている高校1、2年生、ご父母など多くの参加があった。

今回のONLINEオープンキャンパスでは、大学紹介のほか、入試制度説明、Zoomによる個別相談、受験勉強や学生生活など高校生の質問に獨大生が答える企画などを行い、いずれも多くの反響があった。



## 2020年度「子ども大学そうか」開催される

10月10日、草加市立谷塚文化センターで「子ども大学そうか」の入学式が行われた。これは、草加市内の小学5、6年生が学ぶ「子どものための大学」で、入学式には小学生22名が出席し、冒頭、山路朝彦学長から挨拶があった。

その後、ドイツ語学科のカトリン・ニーヴァルダ専任講師による「ドイツ語で遊ぼう!」と題した講義が行われた。緊張した面持ちの児童に対し、ニーヴァルダ講師は笑顔で授業を展開。室内には次第に小さな「学生」たちの元気なドイツ語が響くようになった。

